

10 拡大した貿易黒字

(貿易をとりまく世界経済の状況)

アメリカでは、個人消費は緩やかに増加し、企業収益は堅調に推移するなど、緩やかな回復が続いている。ヨーロッパでは、ユーロ圏の実質経済成長率が13年4～6月期以降4四半期連続でプラスとなるなど、全体としては持ち直している。アジアについて、中国では、12年から13年にかけて、実質経済成長率の伸びが鈍化し、14年1～3月期は前年同期比7.4%となった。また、ASEAN諸国やインドでは、総じて足踏み状態となった。

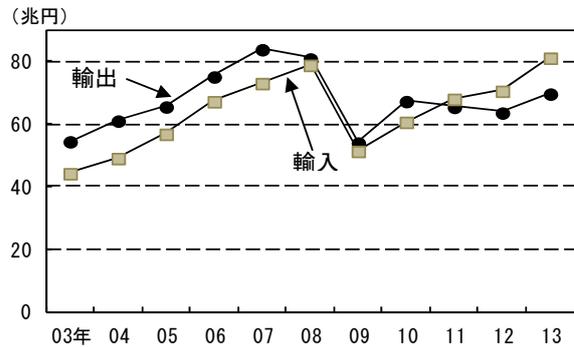
(全国の貿易概況)

2013年の我が国の貿易を前年比で見ると、輸出は海外経済の回復などを背景に、自動車を筆頭に、鉄鋼、半導体等電子部品など幅広い産業で増加し、輸出額は前年比9.5%増の69兆8千億円となった。また、輸入は、震災後の原発停止の代替として火力発電用燃料の需要が引き続き高まったことから原油や液化天然ガス(LNG)を中心に増加し、円安も加わり、輸入額は同14.9%増の81兆2千億円となった。この結果、貿易収支(輸出額-輸入額)は、12年に引き続き11兆5千億円のマイナスとなった。マイナス幅は、12年の6兆9千億円から大きく拡大した。

なお、対ドル円相場は12年の79.81円から13年は97.63円と大きく円安に動き、対ユーロの円相場も12年の102.55円から13年は129.73円と大きく円安となった。

輸出物価指数(円ベース)は12年に2.0%低下したが、13年は幅広い産業で上昇し、全体で11.6%の上昇となり、6年ぶりの上昇となった。また、輸入物価指数(円ベース)は、12年は0.3%の低下であったが、13年は石油・石炭・天然ガスなど幅広い産業で上昇し、全体では14.5%上昇し、2年ぶりに上昇した(図表10-1)。

図表10-1 全国貿易額の推移



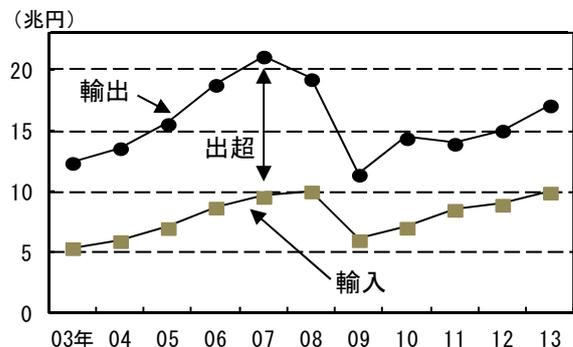
資料：名古屋税関「管内貿易概況」

(名古屋税関管内の貿易概況)

このような状況の中で、名古屋税関管内(愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県)の貿易額等の動向についてみると、2013年は自動車輸出が増加し、輸出額は前年比13.7%増の17兆1689億円となった。輸出額の全国シェアは、前年の23.7%から24.6%と上昇し、前年に引き続き全国1位であった。輸入額は9兆9968億円に増加したが、輸入額の全国シェアは前年の12.7%から12.3%とわずかに減少した。この結果、輸出、輸入を合わせた貿易額の全国シェアは前年の17.9%から18.0%とわずかに上昇した。

また、貿易収支は7兆1721億円(前年6兆1010億円)の黒字(輸出超過)となった。全国の貿易黒字額(黒字税関計)に占める割合は、前年の73.7%から81.9%に上昇した(図表10-2)。

図表10-2 管内貿易額の推移



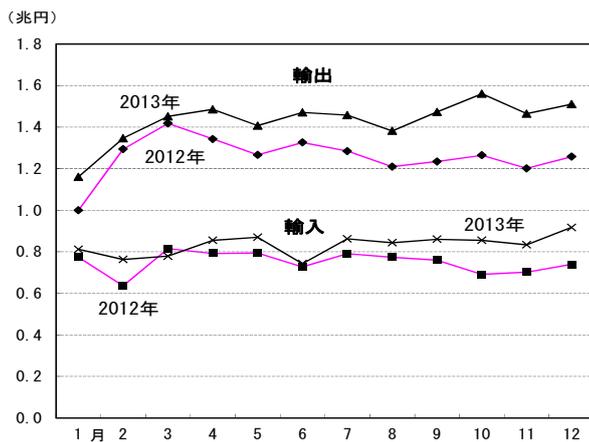
資料：名古屋税関「管内貿易概況」

13年の管内貿易額の月別推移をみると、輸出額は、アメリカの景気回復や、ヨーロッパ経済に持ち直し

の動きがみられたことなどから、全ての月で前年を上回った。

また、輸入額は、原油や液化天然ガス(LNG)価格の上昇に加え、国内生産も堅調に推移したことから、3月を除き、前年を上回った(図表10-3)。

図表10-3 管内貿易額の月別推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

(2年連続の増加だった輸出)

2013年の管内輸出についてみると、輸出総額は前年比13.7%増の17兆1689億円となり、2年連続の増加となった。

管内の輸出先を主要地域(国)別にみると、アメリカ向けは、自動車が大きく増加し、航空機類、原動機なども増加したことから同19.3%増となり、2年連続の増加となった。EU向けは、自動車、原動機、写真用・映画用材料などが増加したことから、同16.3%増と3年ぶりの増加となった。アジア向けは、自動車の部分品、有機化合物、原動機などが増加したことから、同11.4%増と2年ぶりの増加となった。うち中国向けは、自動車の部分品、通信機、有機化合物などが増加し、同16.1%増と2年ぶりの増加となった。中東向けは、自動車が大きく増加し、自動車の部分品なども増加したことから、同13.4%増と2年連続の増加となった。

この結果、管内の輸出先の構成比は、アメリカ25.5%(同24.3%)、EU11.9%(同11.6%)、アジア37.5%(前年38.3%)、うち中国13.9%(同13.6%)、中東7.4%(同7.4%)、その他17.7%(同18.4%)

となり、アメリカ、EUが拡大し、アジア(中国を含む)のシェアが縮小した(図表10-4、10-5)。

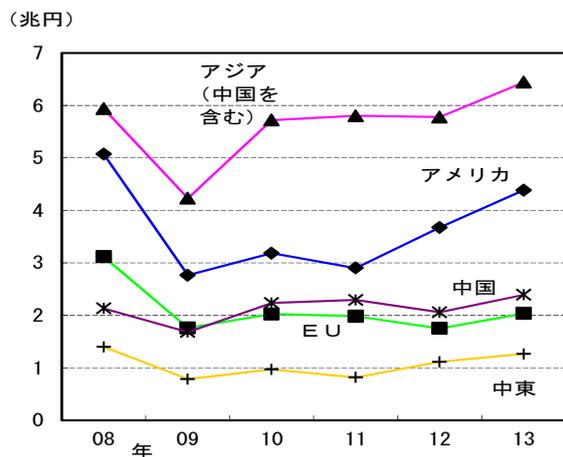
図表10-4 主要地域(国)別管内輸出額の前年増減率の推移

(単位：%)

年	アメリカ	EU	アジア (中国を含む)	中国	中東
08	-18.4	-16.0	-5.4	-4.0	20.3
09	-45.5	-43.5	-28.7	-21.1	-43.9
10	15.1	14.9	35.2	32.8	23.6
11	-8.8	-1.9	1.4	2.6	-15.7
12	26.6	-11.7	-0.4	-10.2	36.3
13	19.3	16.3	11.4	16.1	13.4

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-5 主要地域(国)別管内輸出額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、輸出の主力である自動車は、輸出台数が246万8千台で前年比4.6%減となったが、輸出額は5兆617億円で同12.9%増と2年連続の増加となった。自動車の最大輸出先であるアメリカ向けは、1兆6624億円で同24.2%増、EU向けは、4225億円で同7.8%増、アジア向けは、4106億円で同7.0%増となった。なお、13年の管内の自動車輸出額は、全国の自動車輸出額の48.6%(前年48.6%)を占めている。自動車の部分品は、アメリカ向けが4822億円で同7.5%増、EU向けが3176億円で同6.6%増、アジア向けが9614億円で同19.4%増となり、全体では前年比13.7%増の2兆1666億円となった。ガソリンエンジンや船外

機などの原動機は、アメリカ向け同 28.4%増、EU向け同 21.3%増、アジア向け同 16.3%増となり、全体では 8282 億円で同 19.8%増となった。金属加工機械は、アメリカ向け同 10.4%増、EU向け同 19.8%増であったが、アジア向けが同 14.7%減となり、全体では 4857 億円で同 1.8%減となった。電気計測機器は、アメリカ向け同 22.9%増、EU向け同 23.8%増、アジア向け同 14.1%増となり、全体では 4845 億円で同 18.5%増となった（図表 10-6、10-7）。

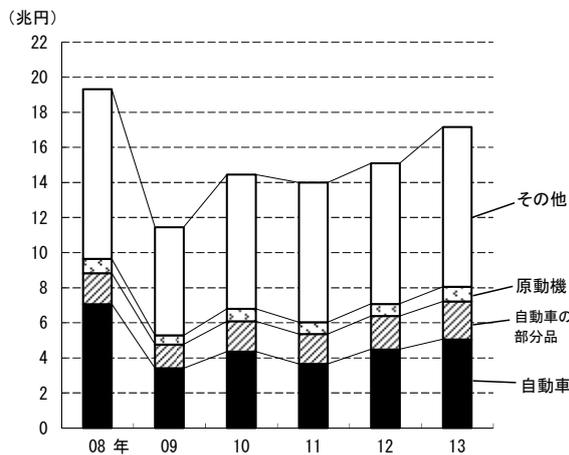
図表 10-6 管内輸出主要品目の動向

（単位：億円、%）

順位	品名	2013年			前年 順位
		金額	対前年増減率	構成比	
1	自動車	50,617	12.9	29.5	1
2	自動車の部分品	21,666	13.7	12.6	2
3	原動機	8,282	19.8	4.8	3
4	金属加工機械	4,857	-1.8	2.8	4
5	電気計測機器	4,845	18.5	2.8	5
輸出総額		171,689	13.7	100.0	

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表 10-7 主要品目別管内輸出額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

（4年連続の増加となった輸入）

2013年の管内輸入についてみると、輸入総額は9兆9968億円となり、前年比11.1%増で4年連続の増加となった。

管内輸入額の主要地域（国）別内訳をみると、アメリカは、航空機類、石油ガス類、金属製品などが

増加したことから、同 18.2%増と3年連続の増加となった。EUは、自動車、有機化合物、原動機などが増加したことから、同 15.1%増と4年連続の増加となった。アジアは、衣類及び同付属品、半導体等電子部品、絶縁電線及び絶縁ケーブルなどが増加し、同 11.6%増と4年連続で増加した。うち中国は、衣類及び同付属品、半導体等電子部品、有機化合物などが増加し、同 7.5%増と4年連続の増加となった。中東は、主要品目である原油及び粗油、石油ガス類などが増加し、同 7.9%増と4年連続の増加となった。その結果、管内輸入地域（国）の構成比は、アメリカ 6.4%（同 6.0%）、EU 9.1%（同 8.8%）、アジア 45.3%（前年 45.1%）、うち中国 21.0%（同 21.7%）、中東 25.3%（同 26.1%）、その他 13.9%（同 14.0%）となり、アメリカ、EU、アジア（中国を含む。）のシェアが拡大する一方、中東のシェアは縮小した（図表 10-8、10-9）。

図表 10-8 主要地域（国）別管内輸入額の前年増減率の推移

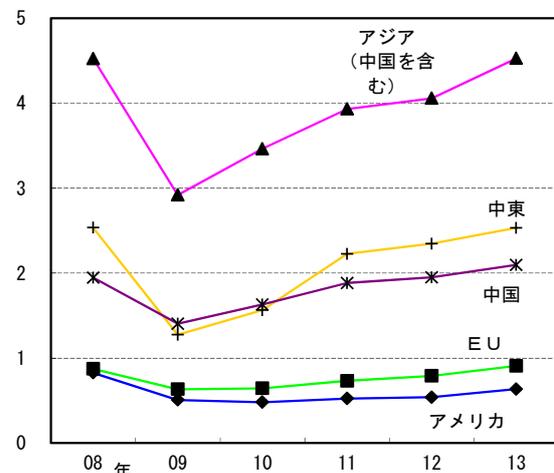
（単位：%）

年	アメリカ	EU	アジア (中国を含む)	中国	中東
08	1.7	-12.0	-1.9	-3.0	30.2
09	-38.7	-27.4	-35.5	-27.9	-49.7
10	-5.3	1.5	18.6	16.2	22.7
11	9.1	13.7	13.5	15.4	42.4
12	2.7	7.9	3.2	3.6	5.4
13	18.2	15.1	11.6	7.5	7.9

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表 10-9 主要地域（国）別管内輸入額の推移

（兆円）



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

次に、主要品目別の動向をみると、原油及び粗油の輸入額は前年比3.4%増の1兆7101億円となった。石油ガス類の輸入額は同6.9%増の1兆5391億円となった。自動車は、輸入台数が17万5千台で、輸入額は同14.5%増の4200億円となった。衣類及び同付属品の輸入額は同21.7%増の3865億円となった。有機化合物の輸入額は同41.4%増の2506億円となった(図表10-10、10-11)。

図表10-10 管内輸入主要品目の動向

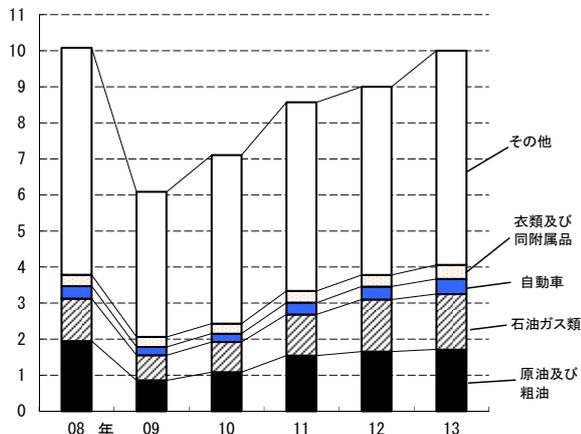
(単位：億円、%)

順位	品名	2013年			前年 順位
		金額	対前年増減率	構成比	
1	原油及び粗油	17,101	3.4	17.1	1
2	石油ガス類	15,391	6.9	15.4	2
3	自動車	4,200	14.5	4.2	3
4	衣類及び同付属品	3,865	21.7	3.9	4
5	有機化合物	2,506	41.4	2.5	10
輸入総額		99,968	11.1	100.0	

資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-11 主要品目別管内輸入額の推移

(兆円)



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

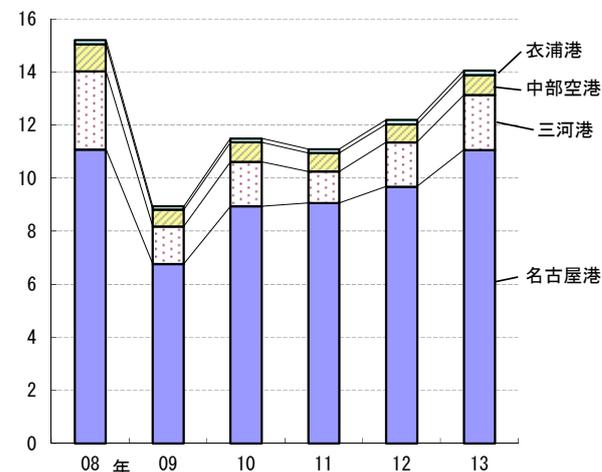
(県内港の状況)

管内貿易港11港のうち、県内には名古屋港、三河港、中部空港、衣浦港の4港がある。2013年の輸出額は、4港の全てで増加し、合計で前年比15.3%増の14兆514億円となり、2年連続で増加した。また、13年の輸入額は、4港の全てで増加し、合計で前年比11.5%増の6兆8406億円となり、4年連続で増加した。これにより貿易収支は、4港合計で前年比19.1%増の7兆2108億円の黒字であった(図表10-12)。

図表10-12 県内港の貿易額の推移

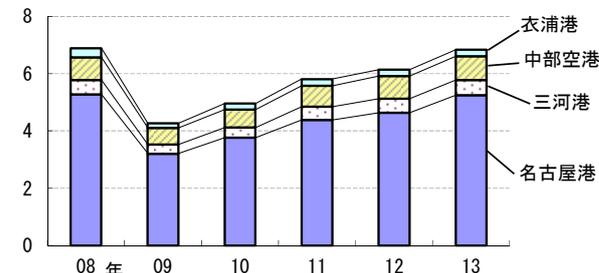
(兆円)

(輸出)



(兆円)

(輸入)



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

図表10-13 県内港・国内五大港・主要空港の貿易額

輸出 (2013年) (単位: 億円, %)

順位	港名	輸出額	対前年増減率	全国比
1	名古屋	110,584	14.3	15.8
2	成田空港	78,574	0.2	11.3
3	横浜	67,480	-0.4	9.7
4	東京	54,737	16.8	7.8
5	神戸	52,165	4.1	7.5
6	関西空港	43,712	11.7	6.3
7	大阪	30,097	9.6	4.3
8	三河	20,671	23.5	3.0
17	中部空港	7,603	12.4	1.1
43	衣浦	1,656	0.6	0.2
全国計		697,742	9.5	100.0
県内港計		140,514	15.3	20.1

輸入 (2013年) (単位: 億円, %)

順位	港名	輸入額	対前年増減率	全国比
1	成田空港	109,867	16.5	13.5
2	東京	100,392	18.7	12.4
3	名古屋	52,520	13.2	6.5
4	大阪	48,558	16.4	6.0
6	横浜	41,737	13.9	5.1
7	関西空港	33,662	14.6	4.1
9	神戸	29,475	12.3	3.6
20	中部空港	8,319	5.1	1.0
30	三河	5,266	7.1	0.6
45	衣浦	2,301	6.6	0.3
全国計		812,425	14.9	100.0
県内港計		68,406	11.5	8.4

資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

〈名古屋港〉

県内最大の貿易港である名古屋港の13年の輸出額は、11兆584億円で前年比14.3%増と4年連続の増加となった。主な輸出品では、自動車の部分品、原動機、電気計測機器が大きく増加し、自動車なども増加した。なお、自動車輸出額は全国の28.4%を占めている。

また、13年の輸入額は、5兆2520億円で同13.2%増と4年連続の増加となった。主な輸入品では、衣類及び同付属品、絶縁電線及び絶縁ケーブルがともに20%以上増加し、石油ガス類なども増加した。

なお、国内五大港（東京港、横浜港、名古屋港、

大阪港、神戸港）の一つで、県内最大の貿易港である名古屋港の13年の輸出額は、海港では15年連続でトップとなると同時に、空港を含めた全貿易港中でもトップとなり、我が国の輸出額の15.8%を占めている。また、13年の輸入額は、海港で東京港に次いで第2位となり、我が国の輸入額の6.5%を占めている（図表10-13、10-14）。

図表10-14 名古屋港貿易額の主要品目別・国別
対前年増減率・構成比 (2013年)

【品目別】

輸出			輸入		
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
自動車	9.2	26.8	石油ガス類	6.9	16.2
自動車の部分品	21.5	15.5	原油及び粗油	-1.5	8.8
原動機	18.2	5.1	衣類及び同付属品	21.2	6.7
金属加工機械	-2.0	4.1	アルミニウム及び合金	4.8	4.3
電気計測機器	19.6	3.5	絶縁電線及び絶縁ケーブル	33.2	3.7

【国別】

輸出			輸入		
国（地域）名	対前年増減率	構成比	国（地域）名	対前年増減率	構成比
アメリカ	16.4	16.8	中国	14.2	31.4
中国	20.0	16.3	カタール	17.2	8.3
タイ	7.9	7.3	サウジアラビア	-2.4	6.6
オーストラリア	11.1	4.5	アメリカ	13.6	6.1
ロシア	6.3	3.5	オーストラリア	0.9	4.7

資料: 名古屋税関「管内貿易概況」

〈三河港〉

三河港の13年の輸出額は、前年比23.5%増の2兆671億円で、県内第2位となっている。輸出先はアメリカが78.8%を占め、輸出額の94.7%は自動車であり、我が国の自動車輸出額の18.8%を占めている。

また、輸入額は、同7.1%増の5266億円となり、主な輸入元はドイツ、ベルギー、韓国となっている。なお、輸入額の75.7%は自動車であり、我が国の自動車輸入額の36.7%を占めている（図表10-15）。

図表 10-15 三河港貿易額の主要品目別・国別
対前年増減率・構成比 (2013年)

【品目別】			【品目別】		
輸出			輸入 (単位：%)		
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
自動車	25.4	94.7	自動車	19.6	75.7
船舶類	-49.3	0.9	鉄鋼のフラットロール製品	-27.2	3.5
(鉄鋼のくず)	35.5	0.9	原油及び粗油	-72.7	2.7
石油製品	30.4	0.5	絶縁電線及び絶縁ケーブル	28.3	2.4

【国別】			【国別】		
輸出			輸入 (単位：%)		
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
アメリカ	31.8	78.8	ドイツ	10.6	32.5
カナダ	-3.0	3.9	ベルギー	57.1	8.9
中国	36.0	1.7	韓国	-7.0	7.0
オランダ	2026.7	1.6	中国	32.2	6.3

資料：財務省「貿易統計」

〈中部空港〉

中部空港の13年の輸出額は、前年比12.4%増の7603億円、輸入額は、同5.1%増の8319億円となった。輸出品では原動機などが増加し、輸入品では有機化合物などが増加した。国別では、輸出、輸入ともに、アメリカが一番多く、約2割を占めている(図表10-16、10-17)。

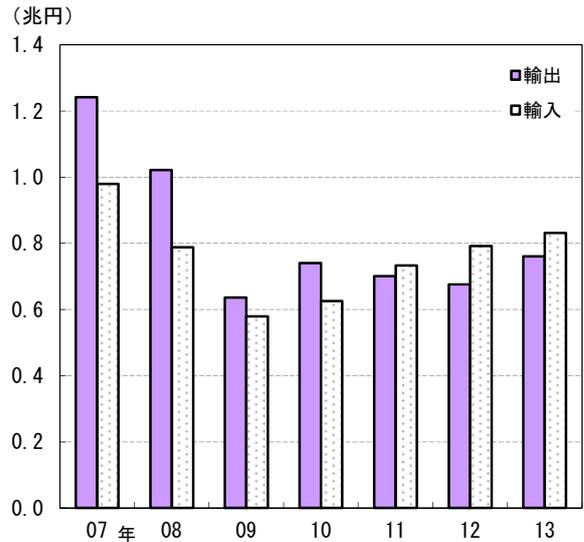
図表 10-16 中部空港貿易額の主要品目別・国別
対前年増減率・構成比 (2013年)

【品目別】			【品目別】		
輸出			輸入 (単位：%)		
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
半導体等電子部品	-24.3	12.6	有機化合物	68.2	14.1
電気回路等の機器	12.3	9.3	半導体等電子部品	54.4	7.5
原動機	41.0	5.3	航空機類	47.7	5.2
電気計測機器	32.2	4.8	原動機	58.9	4.2

【国別】			【国別】		
輸出			輸入 (単位：%)		
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
アメリカ	34.4	21.5	アメリカ	43.4	19.7
中国	32.4	18.7	中国	-48.6	14.3
韓国	28.4	8.1	プエルトリコ	67.0	10.3
香港	-19.9	6.0	ドイツ	5.5	9.8

資料：財務省「貿易統計」

図表 10-17 中部空港 貿易額の推移



資料：名古屋税関「管内貿易概況」

〈衣浦港〉

衣浦港の13年の輸出額は、前年比0.6%増の1656億円、輸入額は、同6.6%増の2301億円となった。輸出品では航空機類などが増加し、輸入品では石油ガス類などが増加した。輸出先ではアメリカが半数近くを占め、輸入元ではオーストラリアが約3割を占めている(図表10-18)。

図表 10-18 衣浦港貿易額の主要品目別・国別
対前年増減率・構成比 (2013年)

【品目別】			【品目別】		
輸出			輸入 (単位：%)		
品目名	対前年増減率	構成比	品目名	対前年増減率	構成比
管及び管用継手	-12.1	49.0	石炭	7.8	42.7
航空機類	37.3	31.7	石油ガス類	16.5	21.5
(鉄鋼のくず)	-7.0	9.0	とうもろこし	1.4	15.6
鉄鋼のフラットロール製品	9.2	5.6	パルプウッド等	37.1	4.2

【国別】			【国別】		
輸出			輸入 (単位：%)		
国(地域)名	対前年増減率	構成比	国(地域)名	対前年増減率	構成比
アメリカ	18.2	45.7	オーストラリア	11.5	26.5
韓国	4.6	17.1	インドネシア	7.8	20.5
中国	-6.1	8.9	アメリカ	-23.7	13.6
タイ	-2.2	3.5	カタール	51.7	8.9

資料：財務省「貿易統計」